

地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2017/08/25 (金) 発行

校長通信 NO.6

北海道日高高等学校
町田英謙

夏季休業期間を終えて

26日間の夏季休業期間ご苦労様でした。生徒達も大きな事故なく有意義な日々を過ごせたことが何よりです。教職員の皆様におかれましては、日頃から夜間定時制の本校特性を考えると普段できない家族との対話時間や、故郷へ帰省で親御さんとの交流、ご先祖様へのご挨拶など、心も体もリフレッシュ出来たことを想像し、これからの教育活動にエネルギーを蓄えたことが一番の収穫ではないかと思えます。

さて、2学期は実りの時期となります。進路の決定に向け、進学・就職活動が実働され、卒業後の進路決定が成される大切な期間となります。教職員全員で一人の生徒達に愛情を注ぎ、個々の希望進路を導く、体制づくりの確立を目指し協働していきましょう。

全国校長会での動向<高大接続>

1 全国校長協会会長

高大接続改革における「大学入学共通テスト(仮称)」、「高校生のための学びの基礎診断(仮称)」実施方針(案)について文科省との意見・要望について報告。

2 文科省担当者から説明

(1)「高校生のための学びの基礎診断(仮称)」
多様な学習成果を測定するツールの一つ、民間試験等を認定する仕組みを創設する。H30年度に測定ツール一覧を提示。H31から導入予定。業者へ受検料は低く要請。

(2)「共通テスト」
英語検定の活用は、高校3年の4月~12月に受験する2回の検定を登録することとなる。「センター」検定試験の利用は各大学の判断とする。H30年度プレテストは、約10万人を対象、大学を会場として実施。高校3年生を対象に12月を予定している。(検討中)

(3)各大学の個別選抜
学力の3要素を育成する観点で検討中。調査書を各大学で活用していくよう記載内容の検討。今後、調査書の電子化も検討。

3 全国校長協会会長から「共通テスト」の説明

5/16の進捗状況から変更は「英語4技能評価」のみ。

- ☆英語の外部検定試験を活用し、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価。
- ☆センターが、試験内容と実施体制を評価し、入学者選抜に適した試験を認定。各大学の判断で活用。(高3の2回まで)
- ☆共通テストの英語試験は、認定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、H35年度まで継続実施。
- ☆各試験団体に、受検料の負担軽減方策を要請。各大学に、受検者の負担配慮、できるだけ多くの種類の認定試験の活用を求める。

- 資格・検定は、経済格差や地域間格差が生じないように配慮。実施方法は、H36年度以降も英語「共通テスト」実施。
 - H30年度のプレテストは大学を会場として全国一斉で実施。12月はセンター試験直前、早急な日程調整を要望。
 - 今年度のプレテストは、11月に英語以外を実施。年度内に英語も実施予定。
 - 検定試験の利用は、「共通テスト」英語の代替となる位置付けであることから、高校2年生までに検定試験を受けたとしても、高校3年生で改めて受けることになっている。
- 以上が全国校長協会からの伝達事項である。

C S 岐阜大会の報告

8月4日(金)に、全国コミュニティ・スクール研究大会が岐阜で開催され、日高町教育委員会と町内小中の校長先生7名で参加させていただきました。

本町は来年度「コミュニティ・スクール」の導入が昨年度決定しており、その運用方法について検討しているところですが、夏休み前にも登別教育委員会の方が町民センター集会所で講演され、全教員が参加研修しましたが、実務面が多く、理念的な概要が分からないままでした。今回の研究大会で、推進している文科省および全国CS連絡協議会の会長をお言葉を含め報告いたします。

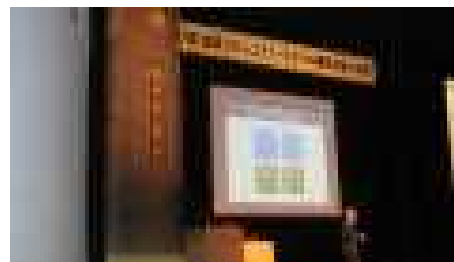
現在、急激な少子高齢化に伴う人口減少、グローバル化に伴う国際環境の変化のなか様々な課題を抱えています。学校は、生徒達の豊かな学びと成長を保証する場としての役割を果たしながら、地域とともに発展していくため、地域の人々と目標やビジョンを共有し、「地域とともにある学校」へ転換することを目指し、取組を推進していく必要があります。

この4月に「地方教育行政の取組及び運営に関する法律」が改正され、平成27年12月の中央教育審議会答申で示された「全ての公立学校が地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みとしてコミュニティ・スクールを目指すべき」との方向性が、学校運営協議会の設置の努力義務化という形で具体化されました。

これは言うまでもなく次期学習指導要領の理念である「社会に拓かれた教育課程」を踏まえたものであり、「これからどのようにして、コミュニティ・スクールを導入するか」「導入したコミュニティ・スクールをどのように充実していくのか」という課題に対し、これまで以上に関心が高まっているところです。

コミュニティ・スクールを導入した校長先生方は、学力向上や生徒指導だけではなく、まちづくりまで視野に入れた協働を進めることは、子どもたちの豊かな社会体験や健全な育ちに繋がるだけではなく、地域が直面する課題の克服や地域の活性化にも非常に有効なものであり、コミュニティ・スクールは「まちづくりの原動力」と言えると、ご講演されていました。

新たな事業内容が加わると不安や業務多忙の懸念も抱くところですが、本校は産業教育との協働で地域社会との強い繋がりを持っていることは間違えなく、その実績を生かしながら、調整を図っていけばいいのではないかと思います。今後のご協力をお願い致します。



2学期に向けて

読書の秋、食欲の秋、実りの秋、秋には様々な言葉がありますが、この期間(秋)は今まで育て、蓄えてきたものの成果を得られる次期でもあります。

3年生は進路決定のため、多種多様の対応が必要となりますが、全国各地から入学した生徒が、この北海道日高町で過ごした高校時代を胸に、上級学校や就職に向け、教職員が一丸となって手を差し伸べる次期ですので、最大限の生徒支援をお願い致します。